12月定例会で決まったこと

継続審査の採決結果

●星野地区用水路及び付帯施設の修繕について

不採択　可否同数

【理由】

輝くふるさと常任委員会が、継続審査をしていた「星野地区用水路及び付帯施設の修繕について」は、可否同数でしたが不採択となりました。

地域や受益者全体との協議を行っていないことや、以前に行われた「星野川災害復旧関連事業」との調整が必要であるため。

現地調査をする議員

町内の自治会や地区からの陳情・要望は、請願と同様の取り扱いとし、提出された内容は輝くふるさと常任委員会に審査を付託し、委員会で調査を行います。

その結果、必要と判断し採択された場合、議会では事業実施に向けた取り組みを行っています。

24年度補正予算

可決　賛成全員

一般会計の主な支出は、葛巻小学校へ太陽光発電設備を設置する事業費3000万円（コカ・コーラ復興支援基金助成）です。

また、各会計ごとの主な質問と答弁の内容は、次のとおりです。

会計名	補正額	補正後予算額
一般会計	5110万円	60億3182万円
国民健康保険事業	881万円	11億　65万円
簡易水道事業	給水施設建設・予備費を事業費へ	
農業集落排水事業	予備費を施設管理・建設費へ	

トピックス

県外視察研修レポート

友好市町の絆さらに深める

南あわじ市を訪問

淡路人形座で関係者から説明を受けた副町長と議員ら

輝くふるさと常任委員会は、平成24年11月7日から9日までの3日間、兵庫県と高知県で視察研修を行いました。

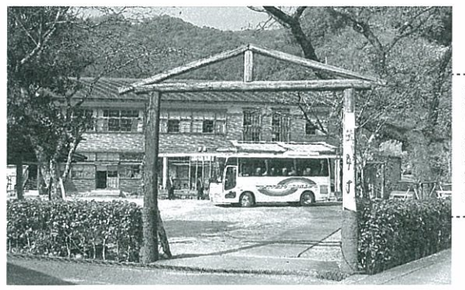
兵庫県では、昭和58年に当町と「友好市町の契り」を結んでいる南あわじ市（旧南淡町）を訪問。平成17年に4町合併で誕生した市の産業振興の説明を受けた後、日本一甘いと有名なタマネギを中心とした畑作振興の状況を視察しました。

また、500年の歴史を誇り、国の重要無形民俗文化財に指定されている淡路人形浄瑠璃や淡路瓦など、豊かな歴史と文化に触れることができました。

視察後は、中田市長、楠市議会議長をはじめ議員や市の職員との交流会が行われ、友好市町の『絆』をさらに深めました。

高知県では、四万十川源流の町・津野町を視察。2町が合併してもなお人口約6000人の小さな町ながら、地域食材の付加価値化によりブランド商品を開発。アンテナショップ「満天の星」を情報発信拠点として町の魅力発信に成功した事例を見学しました。

また、同町中心部からさらに山間部に入った過疎と高齢化に悩む床鍋（とこなべ）地区では、廃校舎を活用し「森の巣箱」に生まれ変わった取り組みを視察。38戸、105人の小さな集落の木造交流施設は、宿泊施設、食堂、コンビニ、浴室や居酒屋までを備えたもの。全戸がオーナーとなって集落再生へと挑戦した同地区には、年間1万人が訪れるもので、過疎に悩む地区の参考となる視察となりました。



森の巣箱全景

説明に熱心に耳を傾ける議員ら

除染対策を充実・強化　農林環境

問　除染対策で、トラクター2台の借上料の内容は。

答　牧草地2400㌶の除染を進めており、今年度の実績は82㌶ほどとなっています。

その中で、急傾斜地や石などで農家が自力で牧草地を更新できない箇所の除染作業を、畜産開発公社などに作業委託するものです。

所得向上と情報発信を　農林環境

問　女性酪農家による乳製品加工施設の内容は。

答　農家の所得向上、酪農の町「くずまき」の情報発信と6次産業の推進を図るため、酪農家15人が組織化を図り、乳製品（ジェラート）の加工・販売と地場産品や牛乳を活用した昼食の提供を目指しています。

松川原に建設する施設はすでに発注済みで、年度末に完成します。営業許可申請を4月に行い、6月にかけて商品を試作し、8月の開店予定です。

財政見通し厳しい状況　国保会計

問　今回の補正予算で、財政調整積立金1000万円、予備費1097万円の減額となっていますが、決算見込みは。

答　収入である国庫支出金は、3300万円ほど減額になる見通しです。

また、支出の約6割を占める保険給付費は、昨年度比で2900万円ほど伸びています。

加入者の高齢化や低所得者の増加など、構造的な問題を抱え、厳しい状況です。

変更請負契約

可決　賛成全員

●地域情報通信基盤施設拡充整備工事

国のエリア放送制度の見直しによる設計変更で、設備費等1050万円を増額するものです。

◇契約金額（変更後）

3億3600万円

暴力団排除条例

可決　賛成全員

この条例は、暴力団の排除を推進し、町民生活の安全確保と町民経済の健全な発展を目的とするもので、4月1日施行されます。

なお、同様の条例は全国47都道府県で制定され、県内市町村でも条例化が進んでいます。